

# 取扱説明書

## 電動グリースポンプ（残量削減形） （シングルライン用）

LPP-R\*AK\*\*-20

## はじめに


本書は、お使いになられるポンプが故障なく充分にその性能を発揮し給脂運転のお役に立つためその使用方法、保守方法について説明したものです。  
本取扱説明書に沿って正しくご使用頂きますようお願い致します。


## もくじ

ダイキン集中潤滑装置を安全にご使用頂くために	P 3
1. 名称・寸法	P 4
2. 形式説明	P 5
3. 仕様	P 5
4. 据付方法	P 6
4-1. 据付場所	P 6
4-2. 配線方法	P 6
4-3. 配管方法	P 6
4-4. 運転前準備	P 6
5. 取扱方法	P 7
5-1. ペール缶取付け方法	P 7～8
5-2. ペール缶取外し方法	P 9
5-3. エア供給方法	P 10
5-4. 空気抜き作業	P 10
5-5. ローレベル調整方法	P 11
5-6. 安全弁	P 11
6. ポンプ下部分解図	P 12
7. 故障の発見と対策	P 13


## ダイキン集中潤滑装置を安全にご使用いただくために


本装置を安全にご使用していただくためには、油圧・配管・電気・配線などに関する基礎的な知識と本装置に関する知識（貴社内で認定されたレベル）を必要とします。誤った取り扱いは事故につながる場合があります。このようなことを防ぐためにも、必ず装置の取扱説明書及び図面（組立図・回路図）を熟読し、内容を十分にご理解していただいた上で、運転・操作・保守整備に携わって下さい。装置を良好な状態で長期間維持し、安全な運転・保守を遂行するために、装置の取り扱い上で誤りのないよう対処されることをお願いします。


 **警告** : 取り扱いを誤った場合に、死亡又は重傷を負う危険が生じる可能性があることを示しています。

 **注意** : 取り扱いを誤った場合に、重・軽傷を負うか又は、物的損害の発生が想定されることを示しています。


### 1. 運転上の注意


 **警告** 1. 運転中は危険ですから、モーターの回転部には手を触れないで下さい。


 **注意** 2. 運転中は危険ですから、各機器のカバーを外したり、蓋を開けたりしないで下さい。


 **注意** 3. 運転中は危険ですから配管及びプラグは絶対に外さないで下さい。

### 2. 保守・点検時の注意

 **警告** 1. ペール缶を交換の際はリフターの指示された箇所を持って作動させ、ストッパーを確実にロックさせた後、実施して下さい。

 **警告** 2. 装置の保守・点検する場合は、感電の恐れがあるので、必ず配電盤の主電源を遮断してから行って下さい。

 **警告** 3. 装置の電源として、複数の異なる電源が入っている場合がありますので十分に確認して、全ての電源を遮断してから行って下さい。

 **注意** 4. 本装置の保守・点検を行う場合、危険ですからポンプを停止させ必ず配管内の圧力を開放してから作業を始めて下さい。

1. 名称・寸法

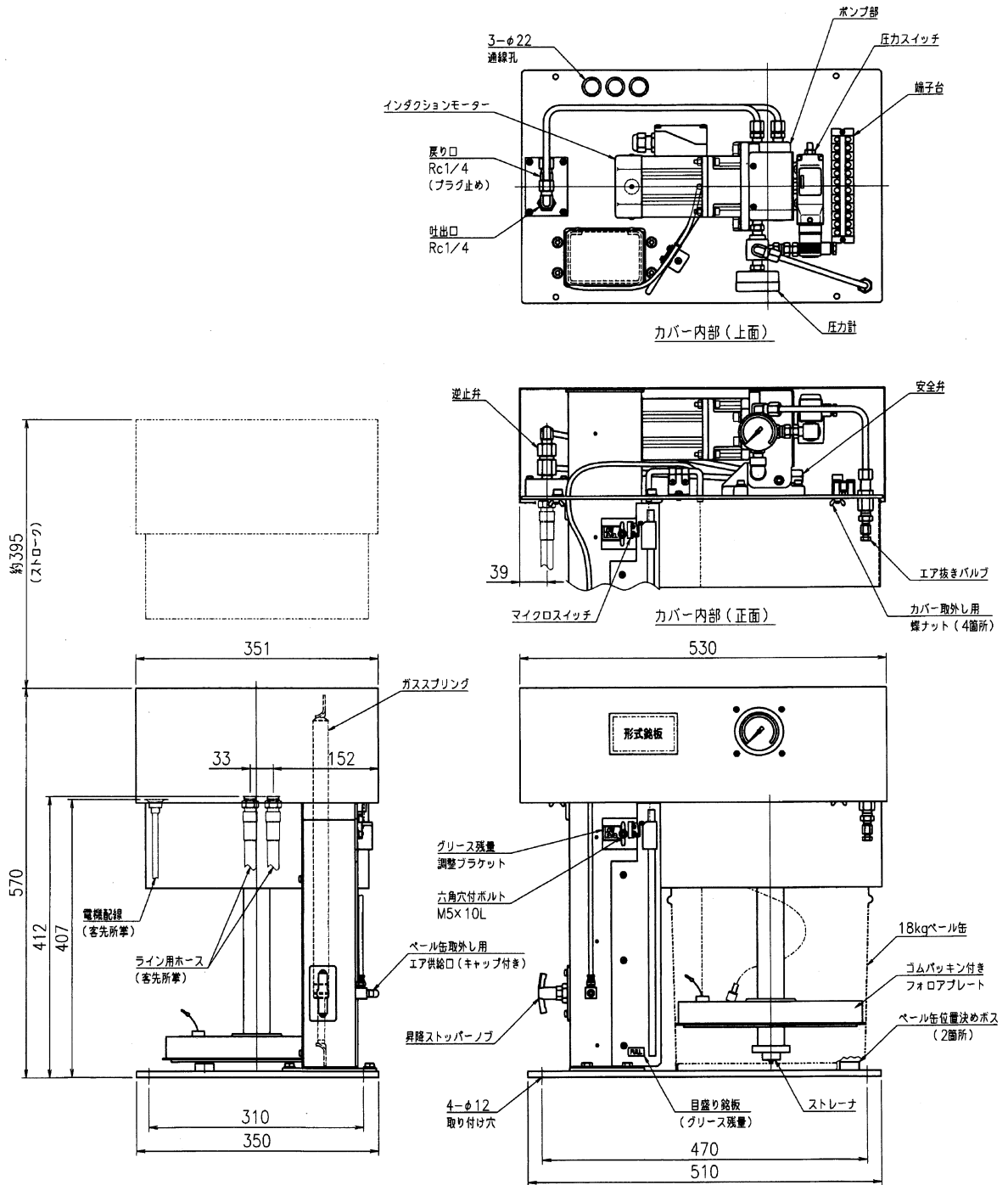
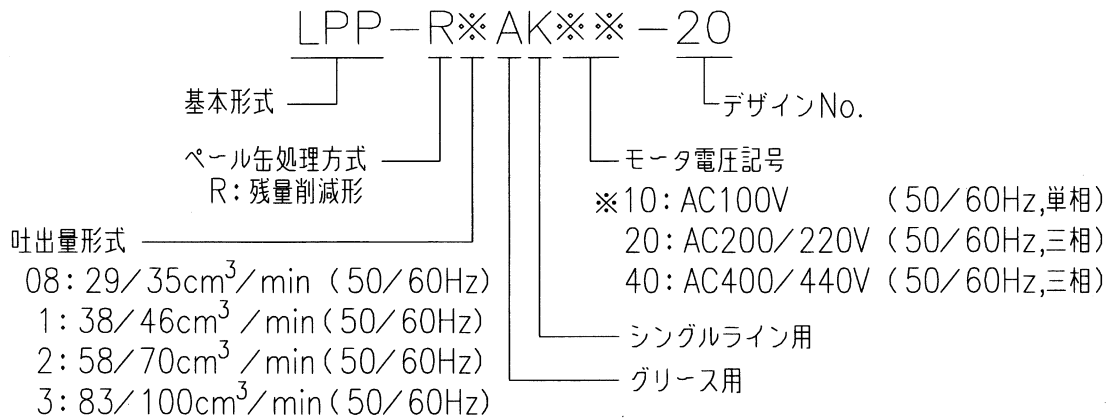


図1 外形寸法図

## 2. 形式説明



※部の電動機電源は3AK (83/100cm<sup>3</sup>/min) タイプの設定はありません。

## 3. 仕様

最高使用圧力	21MPa
使用流体	集中潤滑用グリース NLGI No. 0~No. 2 <注>
適合ペール缶	JISZ1620 1型(18L, 16kg)または2型(20L, 18kg) 変形していないペール缶
周囲温度	0~40℃
電動機	全閉外扇形三相(単相)誘導電動機、減速機 90W-4P
付属品	圧力スイッチ 17MPa ローレベルスイッチ ペール缶内グリース量下限検出 安全弁 25MPa (設定変更しないでください)
塗装職	主要部マンセル5B6/3 (メーカー標準機器及びメッキ部分は除く)
保護構造	屋内、開放形 (上方向からの簡易防滴)
電機結線図	下記図参照 (図2)

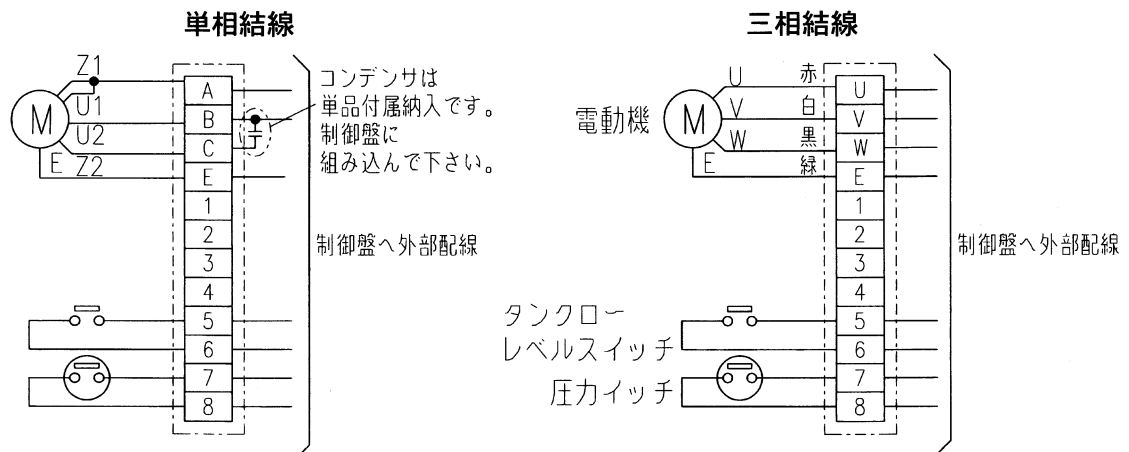


図2 結線図

## &lt; 注意事項 &gt;

- ・ 0℃以下ではグリースの種類によって吐出量が低下することがあります。状況に応じて運転時間を調整するか、柔らかい(ちょう度の大きい)グリースを使用して下さい。
- ・ No. 2グリースをご使用の際は、弊社にご相談下さい。

#### 4. 据付方法

##### 4-1. 据付場所

- ・屋内仕様ですので屋外に設置する場合は風雨を防ぐためキュービクル等に納めて下さい。
- ・コンクリート床面か金属製架台の上の水平面に固定して下さい。

##### 4-2. 配線方法

- ・ポンプが昇降しますので配線は曲がりやすく動きに追従できるように寸法に余裕をもたせて下さい。
- ・設置状況に併せて接地工事、漏電ブレーカの取付を考慮して下さい。
- ・電動機の回転方向の指定はありません。

##### 4-3. 配管方法

- ・ポンプが昇降しますので配管は曲がりやすく昇降時の動きに追従できるようホースで接続をして寸法に余裕をもたせて下さい。

ホース口径 1 / 4 B (使用圧力2.1 MPa)  
長さ 1.2 m以上

##### 4-4. 運転前準備 (新設又は、配管メンテナンス後)

- ・ポンプ出口側に接続する配管及びホース内には運転前に必ずグリースを充填しておいて下さい。

#### < 注意事項 >

- ・屋内でも粉塵等、飛来する異物(水、油を含む)が多い場所ではソフトカバーをご使用下さい。(4-1)
- ・特に粉塵及び湿気の多い所、水が掛る所では必ず接地と漏電ブレーカの使用をお願いします。(4-2)

## 5. 取り扱い方法

### 5-1. ペール缶取付け方法

ペール缶の装着に際しては下記の注意事項及び装着手順に沿って、空気及び異物が混入しないように装着して下さい

#### 〈 注意事項 〉

- ・ 清浄なグリースが入った新しいペール缶を装着して下さい。  
(変形していないものを使用して下さい。)
- ・ ペール缶をセットした後は空気混入防止のため缶内のグリースを使いきるまで、リフターを上昇させないようにして下さい。
- ・ ペール缶交換時に異物が混入した場合は異物を除去して下さい。  
サクシオンフィルターを標準装備しておりますが、異物を完全に除くことはできませんので異物が混入しないようにして下さい。
- ・ 残ったグリースを新しいペール缶の中に入れて下さい。異物、気泡が混入しトラブルの原因となります。

#### 〈新しいペール缶の準備〉 (図3参照)

- ① 清浄なグリースが入った新しいペール缶を用意して下さい。
- ② ペール缶の油面の中央部が凹面または平坦になっている場合はきれいなヘラ等を使用して凸面にして下さい。  
(ポンプを装着時、フォロアプレートの下部にエア溜まりが生じないようにします)  
※ヘラはお客様にて御準備下さい

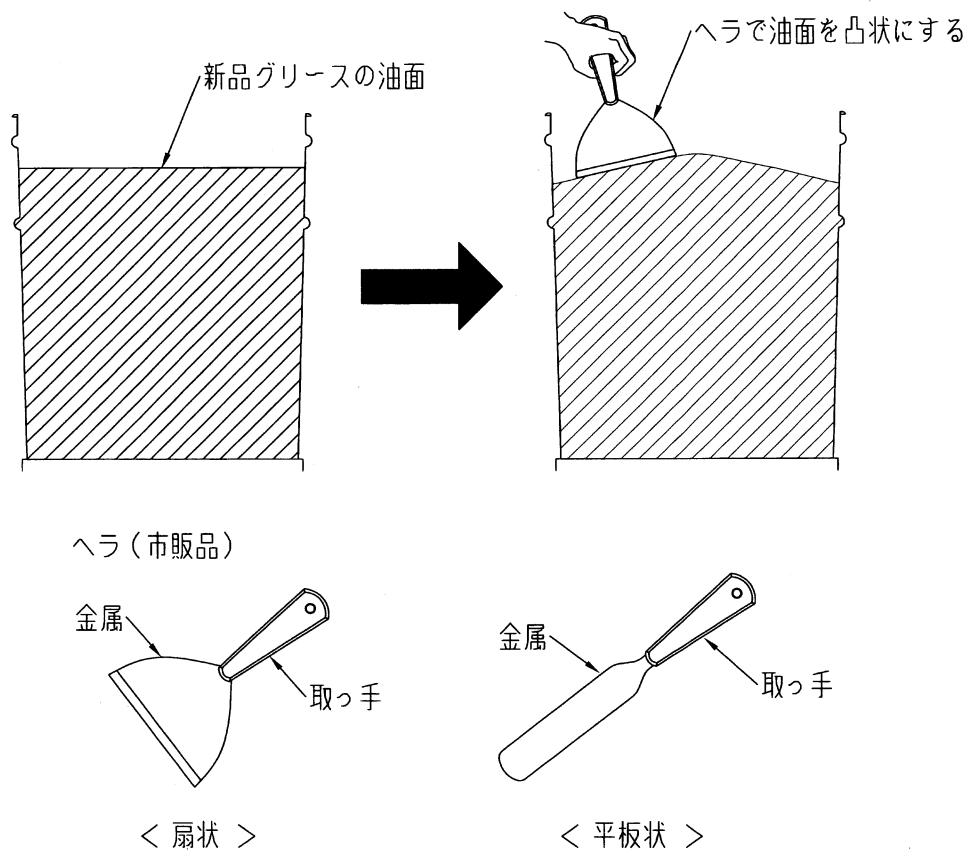


図3 ペール缶準備

### <新しいパール缶装着>

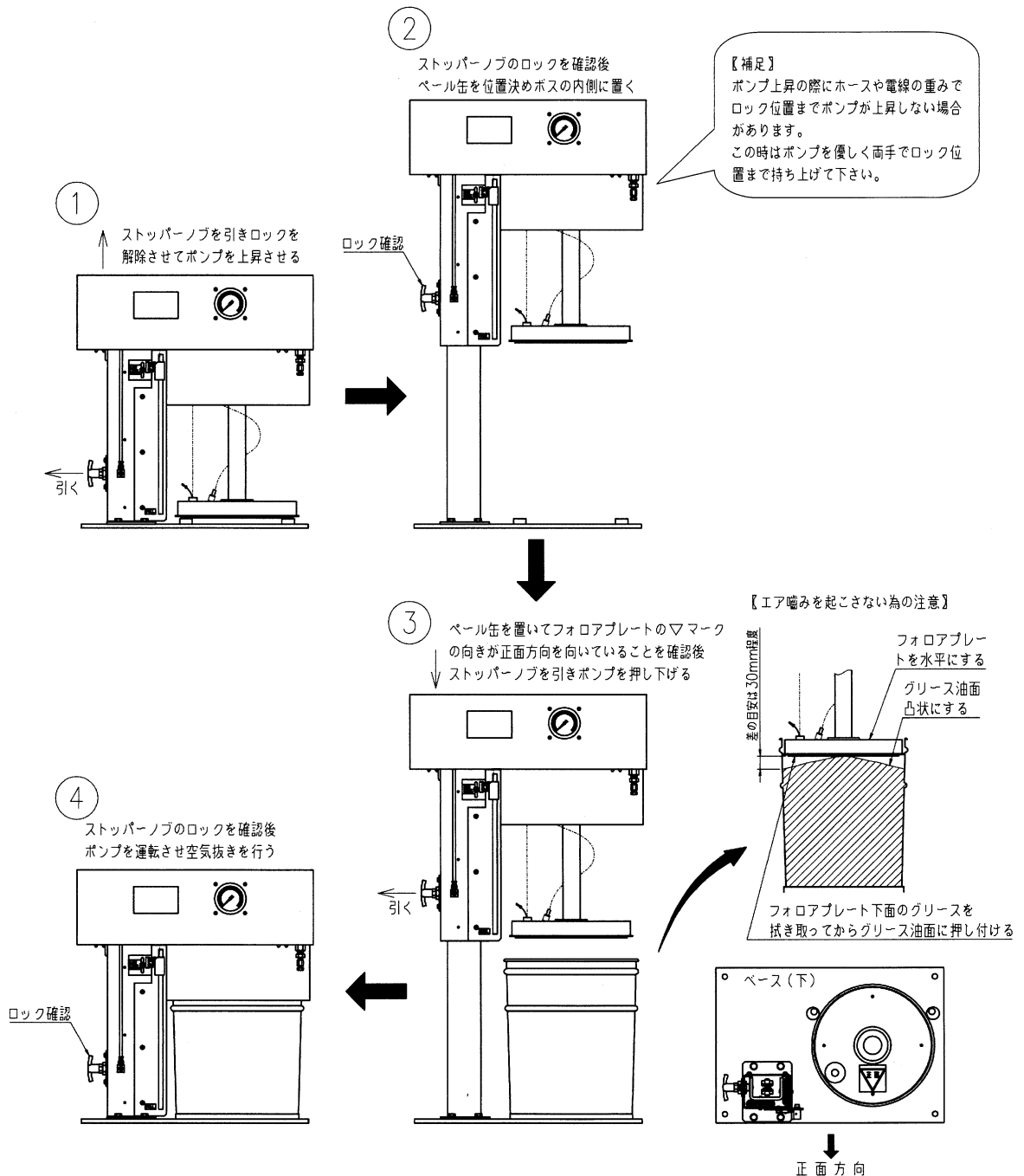


図4 ペール缶取付け方法

### < 注意事項 >

- ・①の作業ではストッパーノブを引くとガススプリングの力で勢よくポンプが上昇しますのでポンプカバーに手を添えてストッパーノブを引いて下さい。
- ・③の作業では必ずポンプカバーの指定された部分を押しポンプを下降させて下さい。
- ・フォロアプレートの▽マークが必ず正面方向を向くようにセットして下さい。
- ・必ず、ペール缶取付時はグリース油面を凸状にして下さい。
- ・フォロアプレートが傾いたりするとポンプが下降できない場合があります。フォロアプレートを水平にした状態でポンプを下降させて下さい。



## 5-2. ペール缶取外し方法

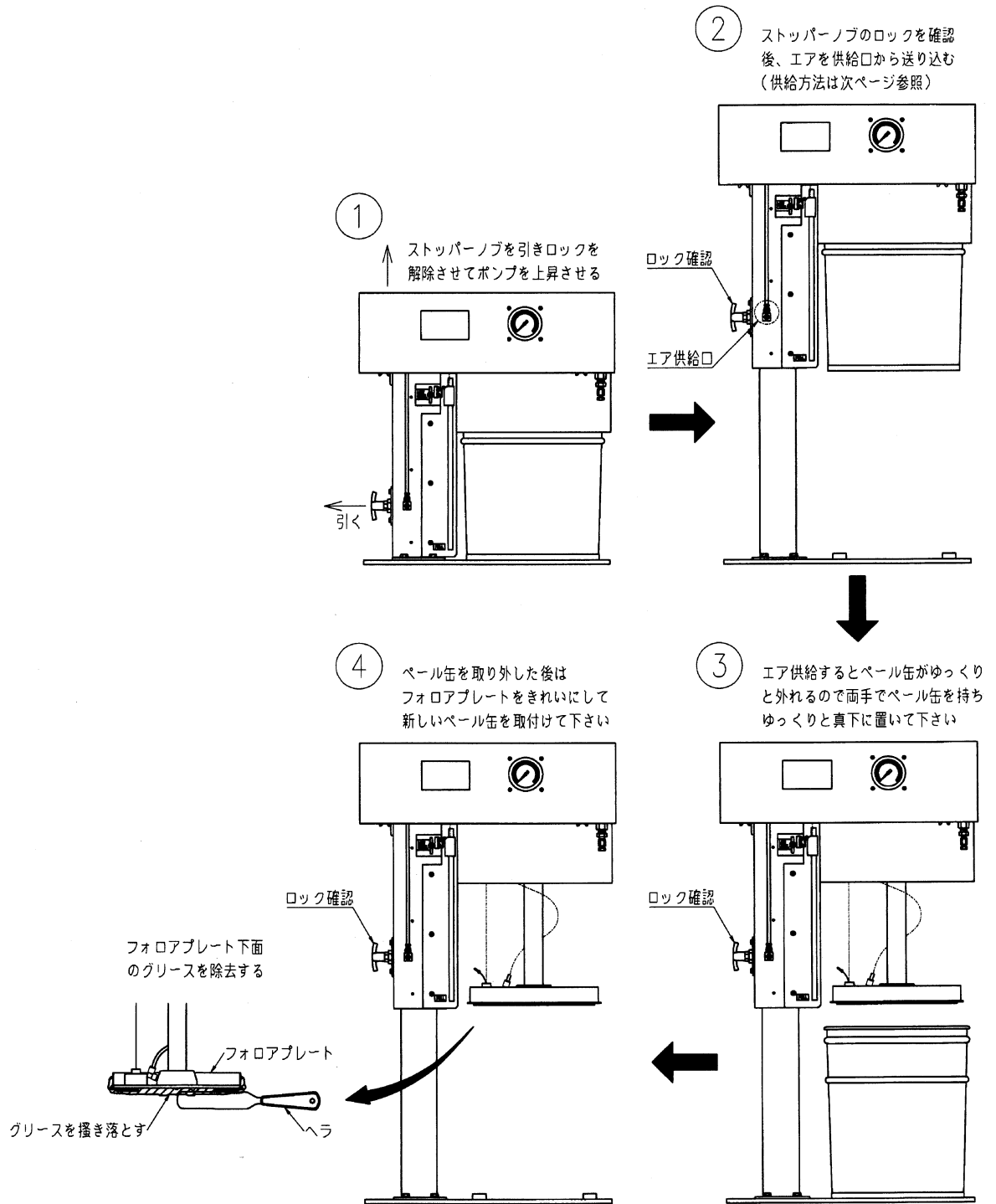


図5 ペール缶取外し方法

## ＜ 注意事項 ＞

- ・必ず、エアを供給してペール缶を取り外して下さい。  
力尽くや無理な外し方をすると故障の原因となりますので絶対にやめて下さい。  
エア供給方法は次ページを参照下さい。
- ・フロアプレートに付いたグリースは新しいペール缶に入れしないで下さい。

## 5-3. エア供給方法

## ●工場エアで供給する場合

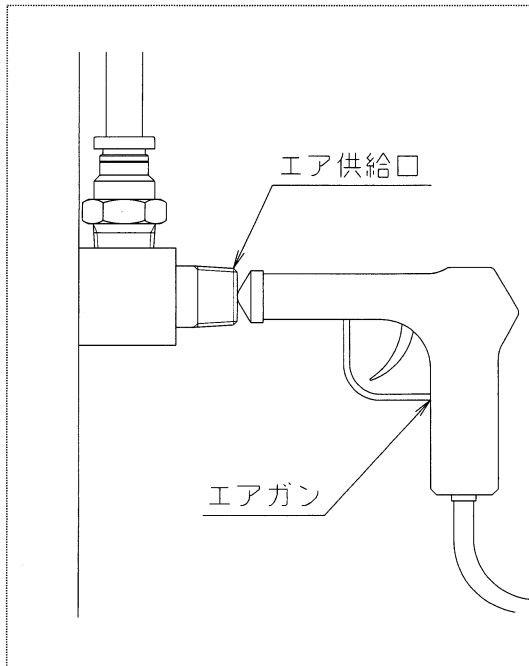
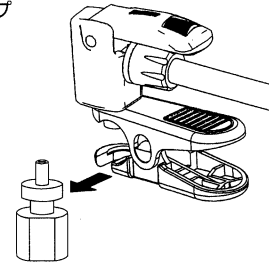


図6 工場エア使用方法

## ●エアポンプ（空気入れ）で供給する場合

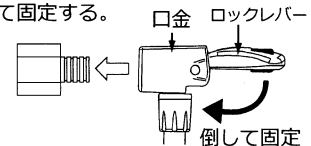
## ■英式金具

図のようにクリップ  
英式金具をはさむ。



## ■米式金具

口金を直接米式金具の  
奥まで差し込みロック  
レバーを倒して固定する。



※エアポンプ・空気入金具（オプション品）  
が必要な場合は弊社まで御連絡下さい。

図7 エアポンプ使用方法

## &lt; 注意事項 &gt;

- ・エア供給はペール缶取外し時のみとして下さい。  
それ以外でエア供給するとトラブルの原因となります。

## 5-4. 空気抜き作業

新しいペール缶を取付け後、  
ポンプを運転させ空気抜きを行う

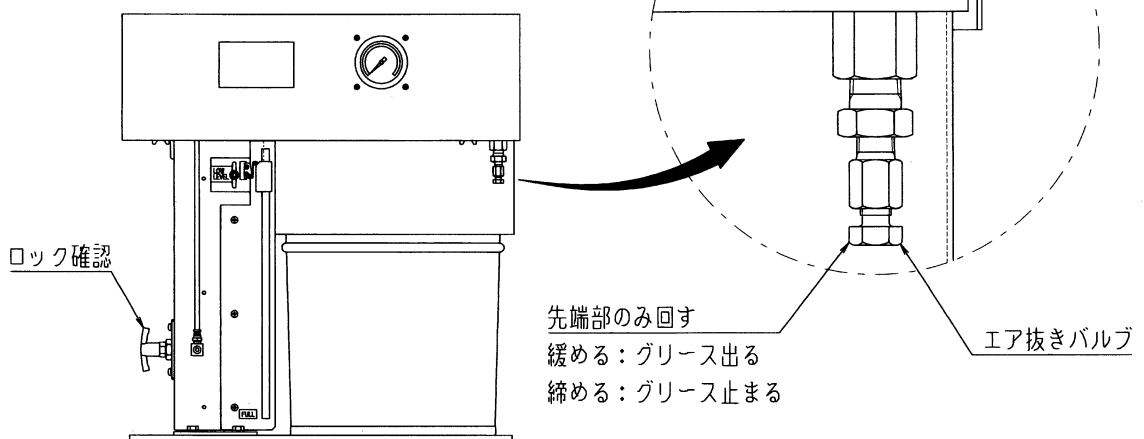


図8 空気抜き作業

## &lt; 注意事項 &gt;

- ・圧力計が0 MPaであることを確認してから空気抜きを行って下さい。
- ・空気抜きを行う際は、十分にエア抜きバルブを緩めてから行って下さい。
- ・エア抜きバルブを閉める際は、破損の原因となるため締め過ぎないようにお願いします。
- ・気泡が出なくなり、安定した吐出をするまで十分に空気抜きを行って下さい。

### 5-5. ローレベル調整方法

- ①六角穴付きボルトを緩める
- ②調整ブラケットを上下どちらかにスライドさせる
  - ・上にスライドの場合：グリース残量が減る方向
  - ・下にスライドの場合：グリース残量が増える方向
- ③設定位置で再び六角穴付きボルトを締め固定させる

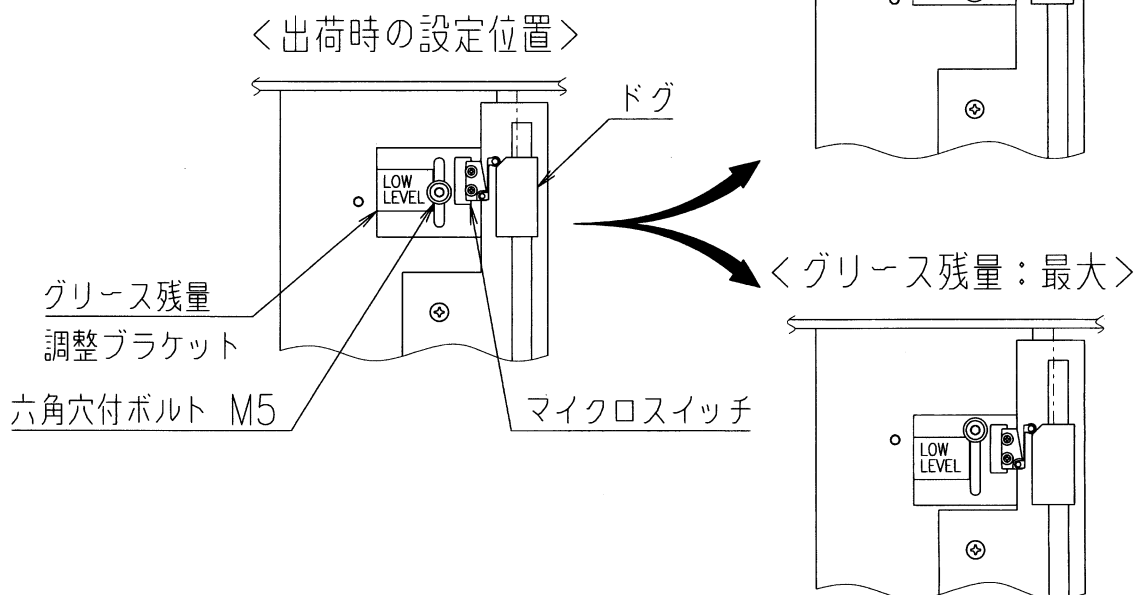


図9 ローレベル調整方法

#### < 注意事項 >

- ・ローレベル位置調整後はマイクロスイッチが作動するか確認して下さい。調整ブラケットの固定位置によってはマイクロスイッチが作動しない場合があります。
- ・グリース残量を最小にする場合は数回に分けて調整して下さい。いきなり最小にするとグリースの種類によってうまくマイクロスイッチが作動しない場合があります。また、十分にポンプの操作方法を理解した上で調整を行って下さい。

### 5-6. 安全弁

ポンプを異常高圧から守るために安全弁を設けています。高圧が発生した場合は、その圧力で安全弁が作動しペール缶内にグリースを逃がします。

設定圧力：25MPa

#### < 注意事項 >

- ・工場で圧力設定しておりますので、絶対に触らないで下さい。

## 6. ポンプ下部分解図

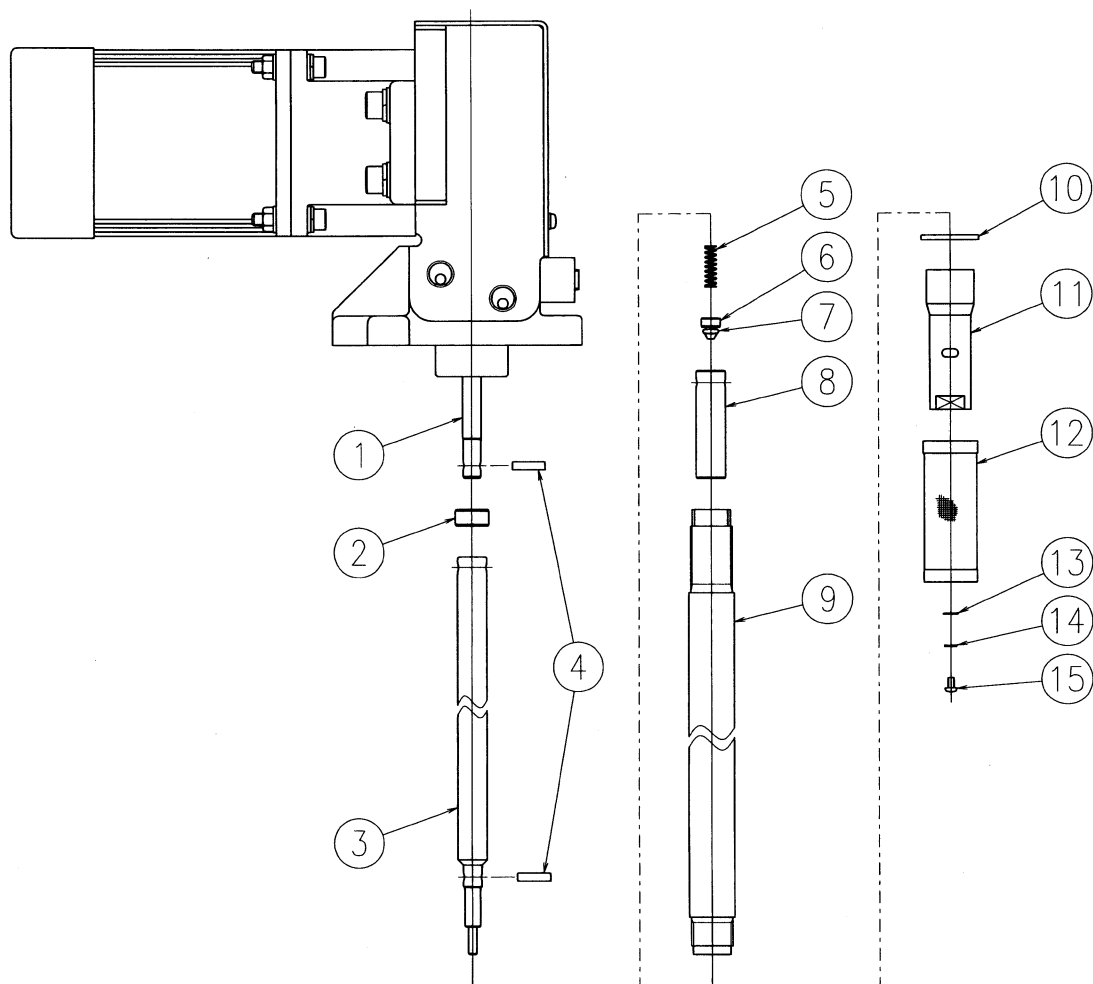


図10 ポンプ下部分解図

## &lt; 構成部品 &gt;

No.	部品番号	部品名称	数量
1	1146515-1	ピストンロッド	1
2	1146514	保持リング	1
3	1132559	連結ロッド	1
4	FP1311-3	パイロットピストン	2
5	2919407824801	バネ	1
6	1146497	ポペット弁	1
7	KP1B004	Oリング	1
8	1132560	ピストン	1
9	1132561	インナーチューブ	1
10	1146498	座金	1
11	1132562	シリンダー	1
12	1146499	サクシヨンストレーナ	1
13	SPAM03C	平座	1
14	SS2M03C	バネ座	1
15	BFMF03005C	鍋小ネジ	1

## 7. 故障の発見と対策

現象	原因	処置
ポンプは作動しているが圧力が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペール缶が空</li> <li>・グリースにエア混入</li> <li>・ポンプ内にエア噛み込み</li> <li>・グリースの漏れ</li> <li>・エア抜きバルブの緩み</li> <li>・ピストン部の摩耗 &lt; 注 &gt;</li> <li>・ポンプ先端のストレーナの目詰まり &lt; 注 &gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペール缶を新品に取り替える</li> <li>・フォロアプレートの取付け時、エア混入に注意（5-1 参照）</li> <li>・ポンプ部エア抜きバルブを緩め空気の混入がなくなるまでグリースを吐出させる（5-4 参照）</li> <li>・継手やプラグ等の接続部から外部へのグリース漏れ箇所をチェックして全て増し締め</li> <li>・エア抜きネジを増し締めす</li> <li>・ピストン部の点検後、修理または交換</li> <li>・ストレーナ部の清掃（図11 参照）</li> </ul>
ポンプが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モーターへ電源が供給されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モーター配線の接続を確認</li> </ul>
ポンプは動作するが吐出量が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピストン部の摩耗 &lt; 注 &gt;</li> <li>・ポンプ先端のストレーナの目詰まり &lt; 注 &gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピストン部の点検後、修理または交換</li> <li>・ストレーナ部の清掃（図11 参照）</li> </ul>

## &lt; 注意事項 &gt;

- ・点検や修理の際は必ずポンプの電源を切ってから実施して下さい。
- ・ピストン部の点検・修理・交換に関しては弊社にご相談下さい。
- ・ストレーナは変形しやすいので踏んだり、ぶついたりしないで下さい。

## ～取り外し方法～

- ①ウエス等できれいにする
- ②鍋小ねじM3を外す
- ③ストレーナを真下に取り外す
- ④ストレーナをエアブロー等できれいにする
- ⑤取付けは上記と逆の手順で取付け、しっかり固定する

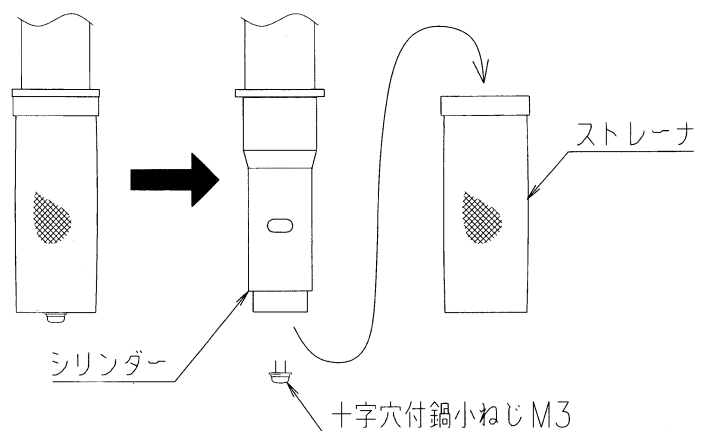


図11 ストレーナ取外し方法

# 取扱説明書

## 電動グリースポンプ（残量削減形） （デュアルライン用）

LPP-R\*AN\*\*\*-20

## はじめに


本書は、お使いになられるポンプが故障なく充分にその性能を発揮し給脂運転のお役に立つためその使用方法、保守方法について説明したものです。  
本取扱説明書に沿って正しくご使用頂きますようお願い致します。


## もくじ

ダイキン集中潤滑装置を安全にご使用頂くために	P 3
1. 名称・寸法	P 4
2. 形式説明	P 5
3. 仕様	P 5
4. 据付方法	P 6
4-1. 据付場所	P 6
4-2. 配線方法	P 6
4-3. 配管方法	P 6
4-4. 運転前準備	P 6
5. 取扱方法	P 7
5-1. ペール缶取付け方法	P 7～8
5-2. ペール缶取外し方法	P 9
5-3. エア供給方法	P 10
5-4. 空気抜き作業	P 10
5-5. ローレベル調整方法	P 11
5-6. 安全弁	P 11
6. 電磁切換弁 (SV02-3C※形)	P 12
6-1. 仕様	P 12
6-2. 作動説明	P 12
6. ポンプ下部分解図	P 13
7. 故障の発見と対策	P 14


## ダイキン集中潤滑装置を安全にご使用いただくために


本装置を安全にご使用していただくためには、油圧・配管・電気・配線などに関する基礎的な知識と本装置に関する知識（貴社内で認定されたレベル）を必要とします。誤った取り扱いは事故につながる場合があります。このようなことを防ぐためにも、必ず装置の取扱説明書及び図面（組立図・回路図）を熟読し、内容を十分にご理解していただいた上で、運転・操作・保守整備に携わって下さい。装置を良好な状態で長期間維持し、安全な運転・保守を遂行するために、装置の取り扱い上で誤りのないよう対処されることをお願いします。


 **警告** : 取り扱いを誤った場合に、死亡又は重傷を負う危険が生じる可能性があることを示しています。

 **注意** : 取り扱いを誤った場合に、重・軽傷を負うか又は、物的損害の発生が想定されることを示しています。


### 1. 運転上の注意


 **警告** 1. 運転中は危険ですから、モーターの回転部には手を触れないで下さい。


 **注意** 2. 運転中は危険ですから、各機器のカバーを外したり、蓋を開けたりしないで下さい。


 **注意** 3. 運転中は危険ですから配管及びプラグは絶対に外さないで下さい。

### 2. 保守・点検時の注意

 **警告** 1. ペール缶を交換の際はリフターの指示された箇所を持って作動させ、ストッパーを確実にロックさせた後、実施して下さい。

 **警告** 2. 装置の保守・点検する場合は、感電の恐れがあるので、必ず配電盤の主電源を遮断してから行って下さい。

 **警告** 3. 装置の電源として、複数の異なる電源が入っている場合がありますので十分に確認して、全ての電源を遮断してから行って下さい。

 **注意** 4. 本装置の保守・点検を行う場合、危険ですからポンプを停止させ必ず配管内の圧力を開放してから作業を始めて下さい。



1. 名称・寸法

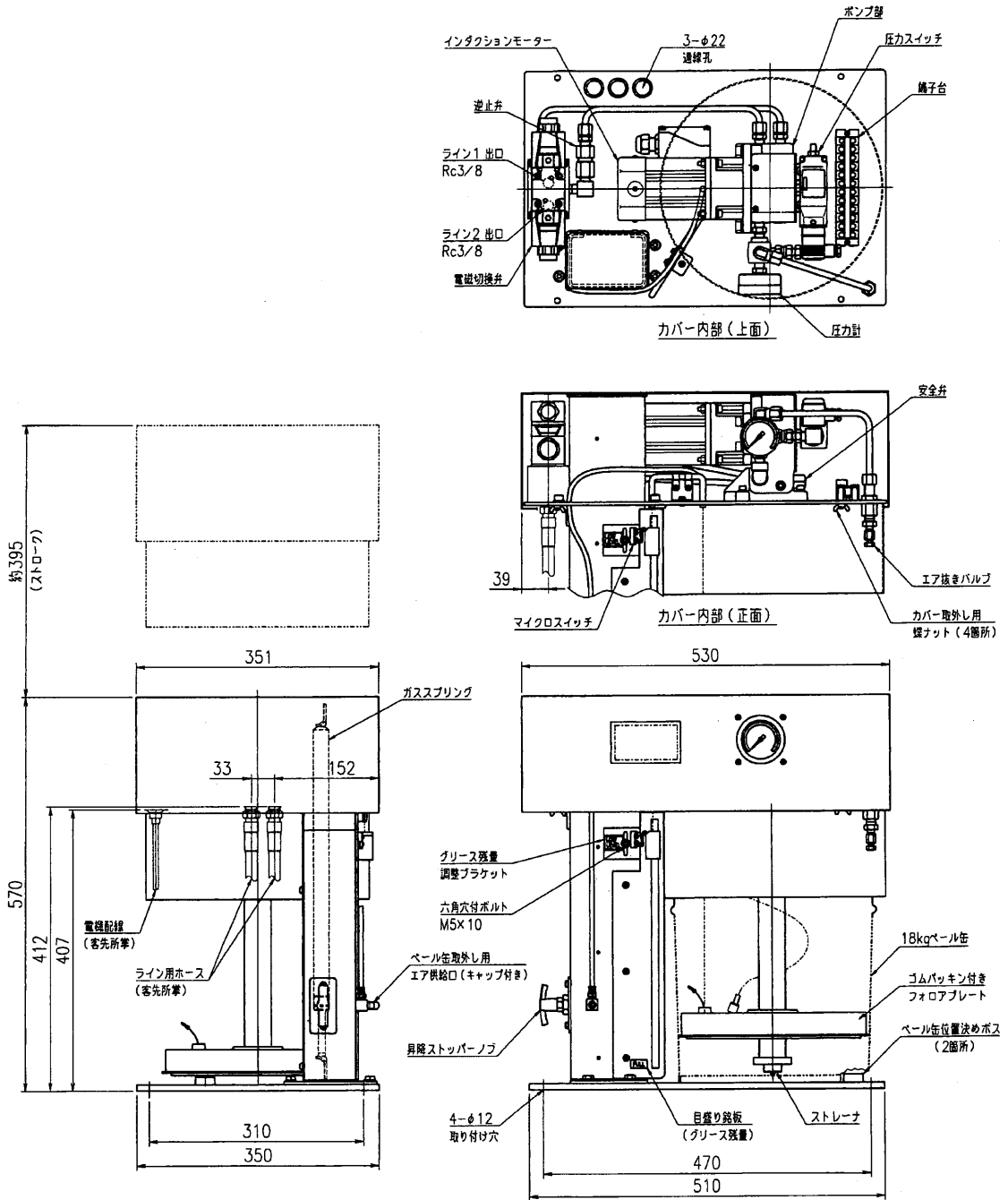
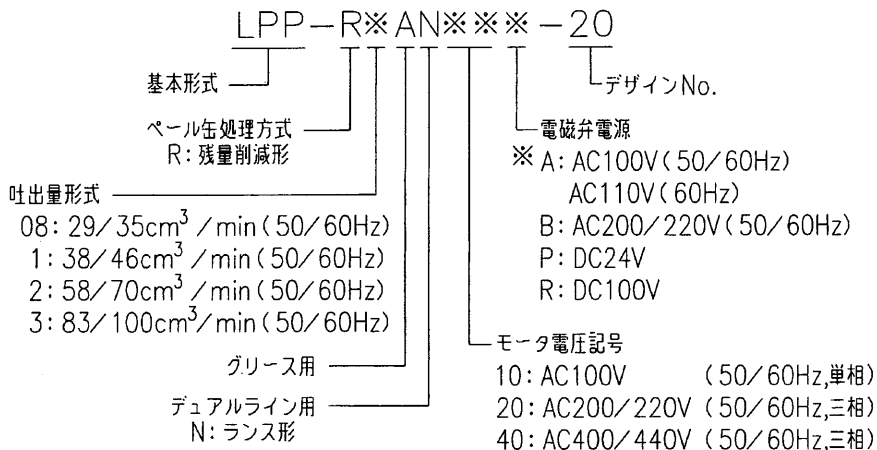


図1 外形寸法図

2. 形式説明



※部の電動機電源は3AN (83/100cm<sup>3</sup>/min) タイプの設定はありません。

3. 仕様

最高使用圧力	21MPa
使用流体	集中潤滑用グリース NLGI No. 0~No. 2 <注>
適合ペール缶	JISZ1620 1型(18L, 16kg)または2型(20L, 18kg) 変形していないペール缶
周囲温度	0~40℃
電動機	全閉外扇形三相(単相)誘導電動機、減速機 90W-4P
付属品	圧カスイッチ 17MPa ローレベルスイッチ ペール缶内グリース量下限検出 安全弁 25MPa (設定変更しないでください)
塗装職	主要部マンセル5B6/3 (メーカー標準機器及びメッキ部分は除く)
保護構造	屋内、開放形(上方向からの簡易防滴)
電機結線図	下記図参照(図2)

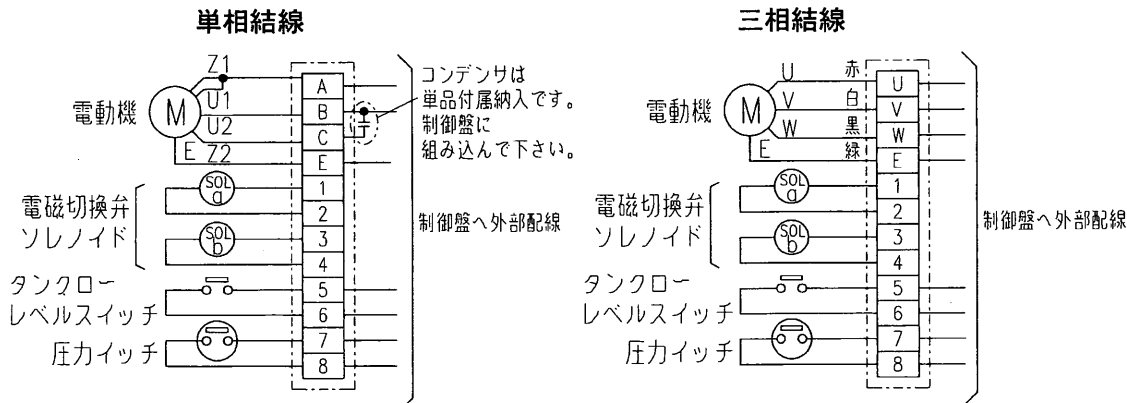


図2 結線図

< 注意事項 >

- ・ 0℃以下ではグリースの種類によって吐出量が低下することがあります。状況に応じて運転時間を調整するか、柔らかい(ちょう度の大きい)グリースを使用して下さい。
- ・ No. 2グリースをご使用の際は、弊社にご相談下さい。

#### 4. 据付方法

##### 4-1. 据付場所

- ・屋内仕様ですので屋外に設置する場合は風雨を防ぐためキュービクル等に納めて下さい。
- ・コンクリート床面か金属製架台の上の水平面に固定して下さい。

##### 4-2. 配線方法

- ・ポンプが昇降しますので配線は曲がりやすく動きに追従できるように寸法に余裕をもたせて下さい。
- ・設置状況に併せて接地工事、漏電ブレーカの取付を考慮して下さい。
- ・電動機の回転方向の指定はありません。

##### 4-3. 配管方法

- ・ポンプが昇降しますので配管は曲がりやすく昇降時の動きに追従できるようホースで接続をして寸法に余裕をもたせて下さい。

ホース口径 1 / 4 B (使用圧力 2.1 MPa)

長さ 1.2 m以上

##### 4-4. 運転前準備 (新設又は、配管メンテナンス後)

- ・ポンプ出口側に接続する配管及びホース内には運転前に必ずグリースを充填しておいて下さい。

#### < 注意事項 >

- ・屋内でも粉塵等、飛来する異物 (水、油を含む) が多い場所ではソフトカバーをご使用下さい。(4-1)
- ・特に粉塵及び湿気の多い所、水が掛る所では必ず接地と漏電ブレーカの使用をお願いします。(4-2)
- ・グリース充填を怠ると配管及びホース内に在った空気がライン切換時にペール缶へと送り込まれてしまい吐出不良の原因となります。(4-4)

## 5. 取り扱い方法

### 5-1. ペール缶取付け方法

ペール缶の装着に際しては下記の注意事項及び装着手順に沿って、空気及び異物が混入しないように装着して下さい

#### 〈 注意事項 〉

- ・ 清浄なグリースが入った新しいペール缶を装着して下さい。  
(変形していないものを使用して下さい。)
- ・ ペール缶をセットした後は空気混入防止のため缶内のグリースを使いきるまで、リフターを上昇させないようにして下さい。
- ・ ペール缶交換時に異物が混入した場合は異物を除去して下さい。  
サクションフィルターを標準装備しておりますが、異物を完全に除くことはできませんので異物が混入しないようにして下さい。
- ・ 残ったグリースを新しいペール缶の中に入れて下さい。異物、気泡が混入しトラブルの原因となります。

#### 〈新しいペール缶の準備〉 (図3参照)

- ① 清浄なグリースが入った新しいペール缶を用意して下さい。
- ② ペール缶の油面の中央部が凹面または平坦になっている場合はきれいなヘラ等を使用して凸面にして下さい。  
(ポンプを装着時、フォロアプレート下部にエア溜まりが生じないようにします)  
※ヘラはお客様にて御準備下さい

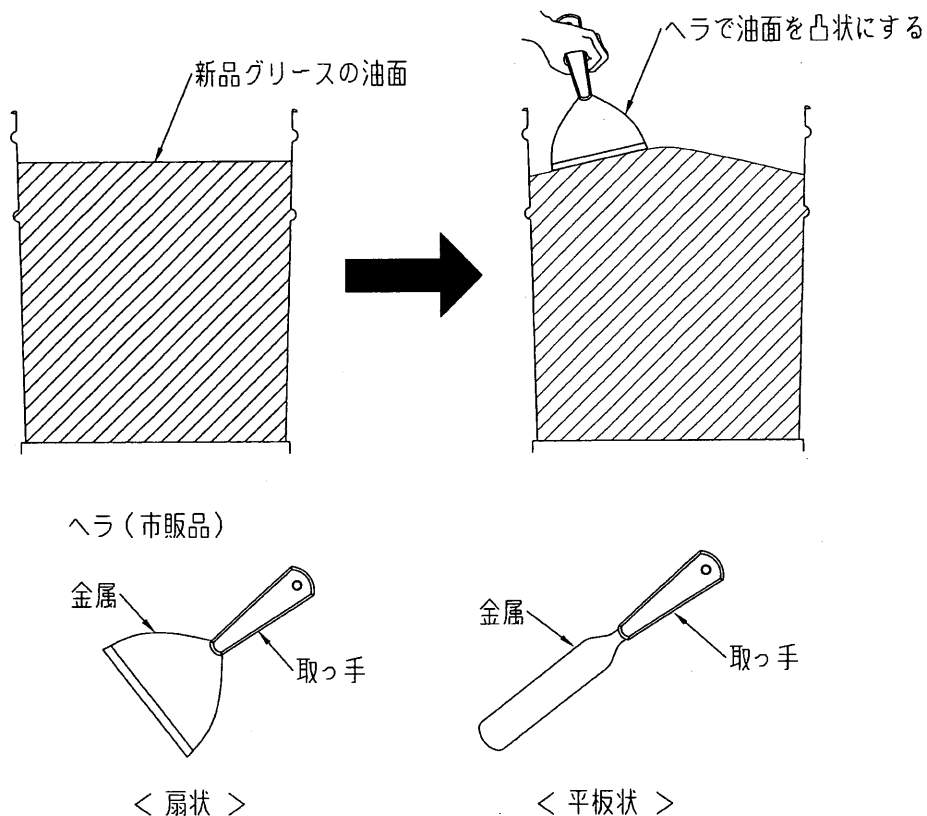


図3 ペール缶準備

### <新しいパール缶装着>

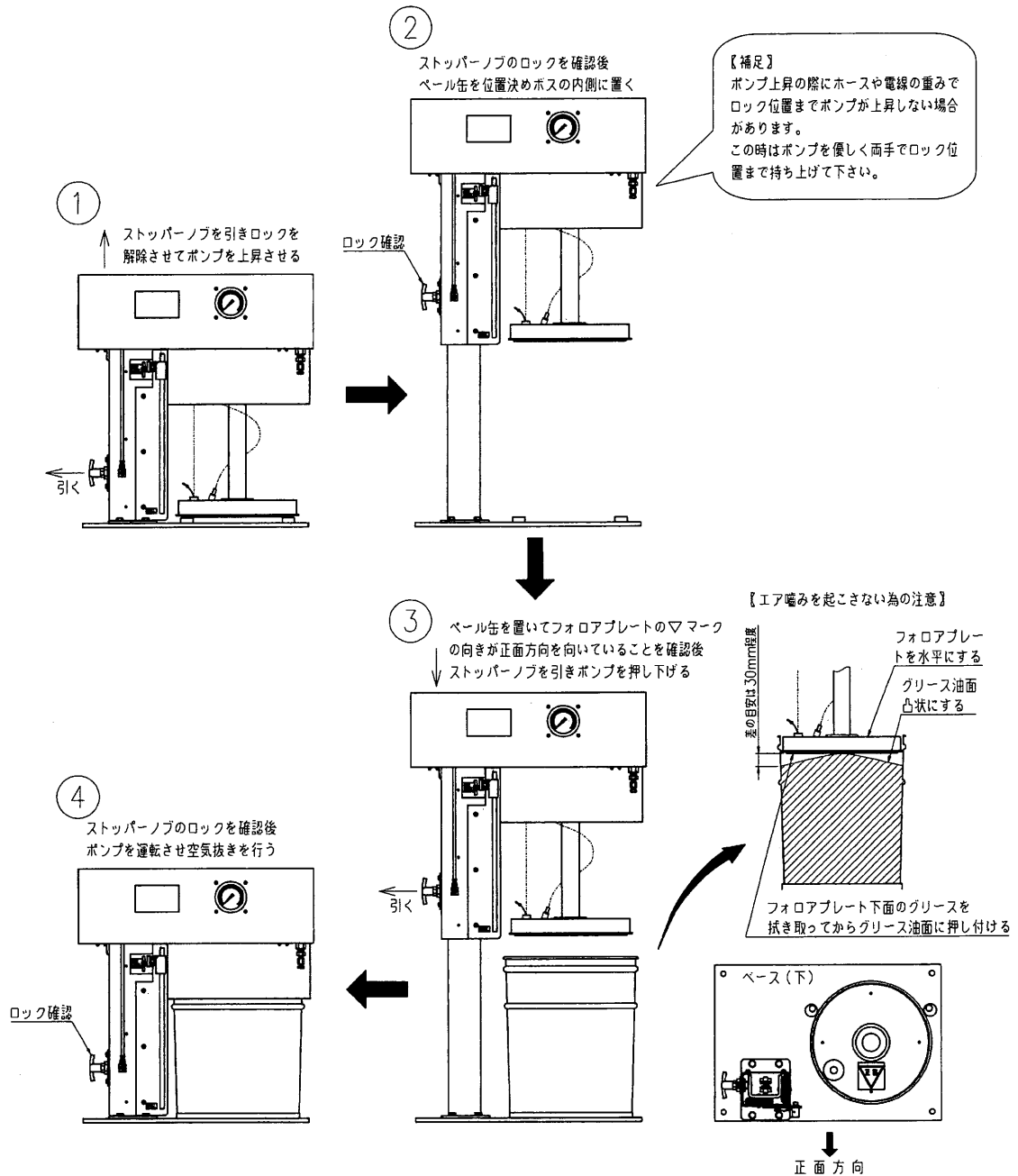


図4 パール缶取付け方法

### < 注意事項 >

- ・①の作業ではストッパーノブを引くとガススプリングの力で勢いよくポンプが上昇しますのでポンプカバーに手を添えてストッパーノブを引いて下さい。
- ・③の作業では必ずポンプカバーの指定された部分を押しポンプを下降させて下さい。
- ・フォロアプレートの▽マークが必ず正面方向を向くようにセットして下さい。
- ・必ず、パール缶取付時はグリース油面を凸状にして下さい。
- ・フォロアプレートが傾いたりするとポンプが下降できない場合があります。フォロアプレートを水平にした状態でポンプを下降させて下さい。

## 5-2. ペール缶取外し方法

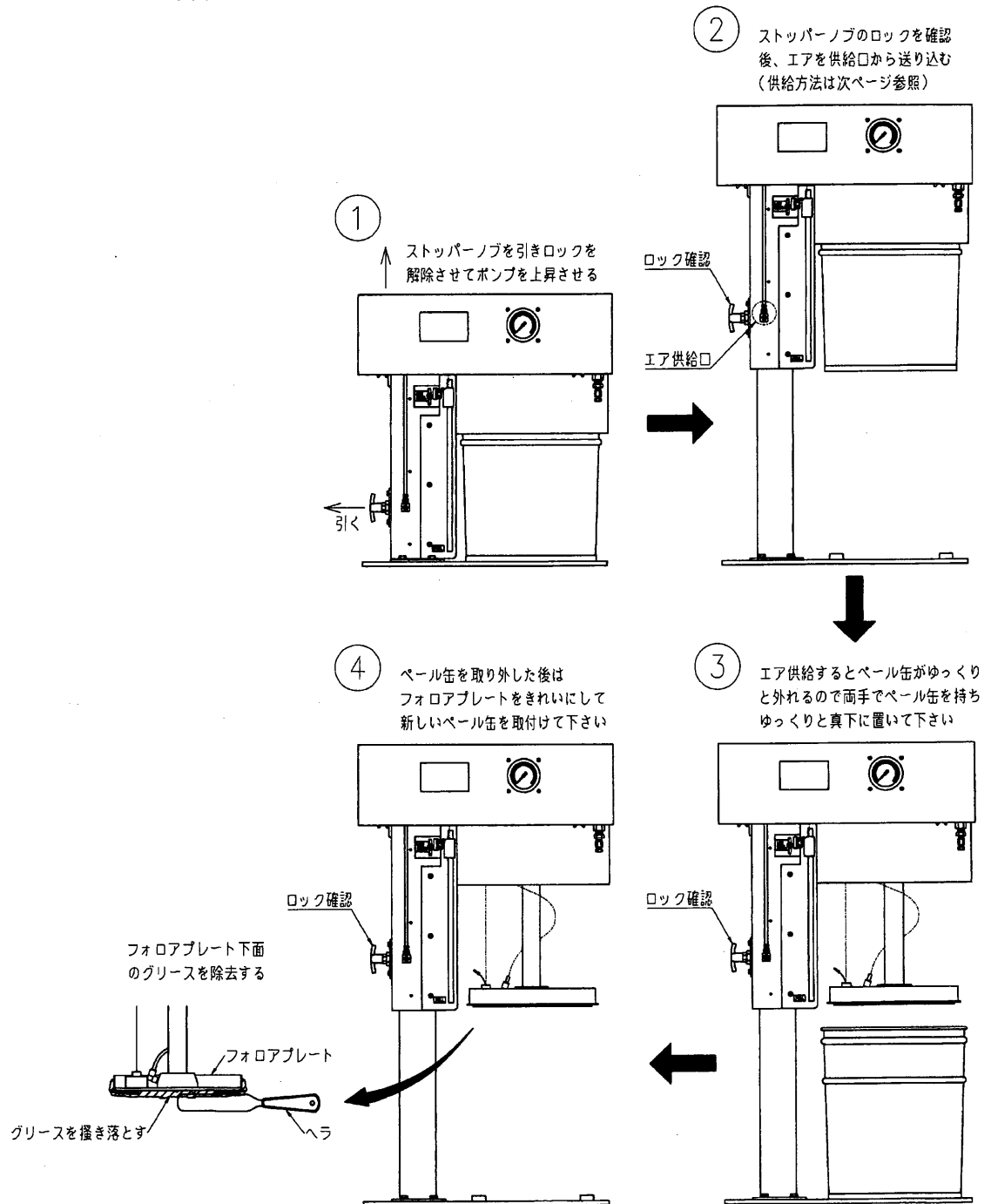


図5 ペール缶取外し方法

## &lt; 注意事項 &gt;

- ・必ず、エアを供給してペール缶を取り外して下さい。  
力尽くや無理な外し方をすると故障の原因となりますので絶対にやめて下さい。  
エア供給方法は次ページを参照下さい。
- ・フォロアプレートに付いたグリースは新しいペール缶に入れしないで下さい。

## 5-3. エア供給方法

## ●工場エアで供給する場合

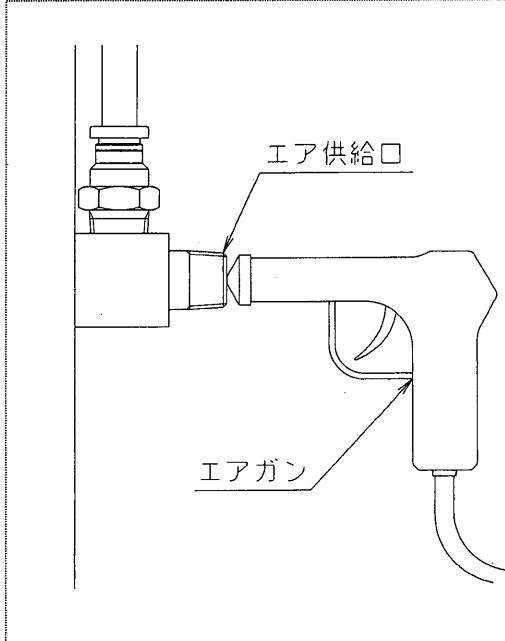
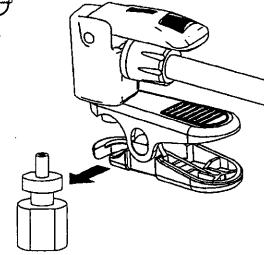


図6 工場エア使用方法

## ●エアポンプ（空気入れ）で供給する場合

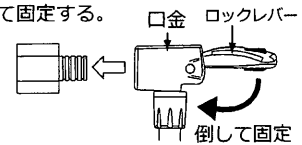
## ■英式金具

図のようにクリップ  
英式金具をはさむ。



## ■米式金具

口金を直接米式金具の  
奥まで差し込みロック  
レバーを倒して固定する。



※エアポンプ・空気入金具（オプション品）  
が必要な場合は弊社まで御連絡下さい。

図7 エアポンプ使用方法

## 〈 注意事項 〉

- ・エア供給はパール缶取外し時のみとして下さい。  
それ以外でエア供給するとトラブルの原因となります。

## 5-4. 空気抜き作業

新しいパール缶を取付け後、  
ポンプを運転させ空気抜きを行う

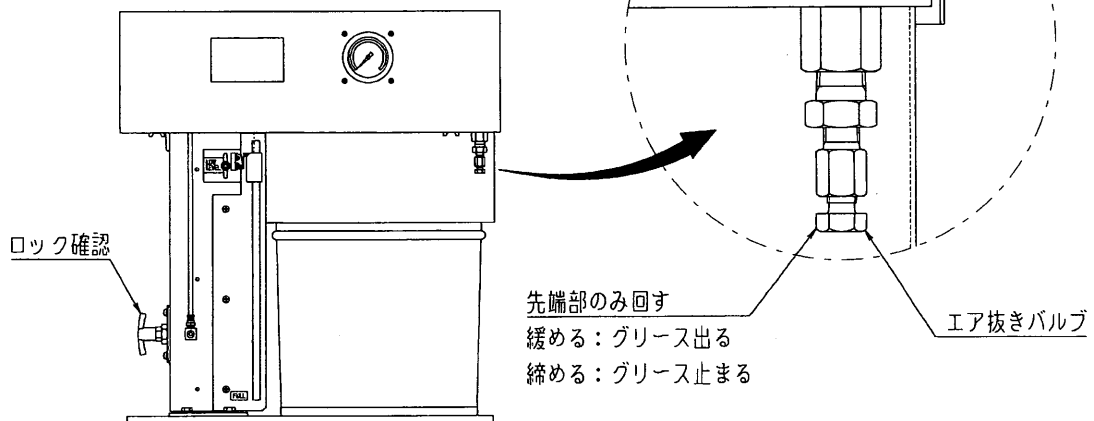


図8 空気抜き作業

## 〈 注意事項 〉

- ・圧力計が0MPaであることを確認してから空気抜きを行って下さい。
- ・空気抜きを行う際は、十分にエア抜きバルブを緩めてから行って下さい。
- ・エア抜きバルブを閉める際は、破損の原因となるため締め過ぎないようにお願いします。
- ・気泡が出なくなり、安定した吐出をするまで十分に空気抜きを行って下さい。

### 5-5. ローレベル調整方法

- ①六角穴付きボルトを緩める
- ②調整ブラケットを上下どちらかにスライドさせる
  - ・上にスライドの場合：グリース残量が減る方向
  - ・下にスライドの場合：グリース残量が増える方向
- ③設定位置で再び六角穴付きボルトを締め固定させる

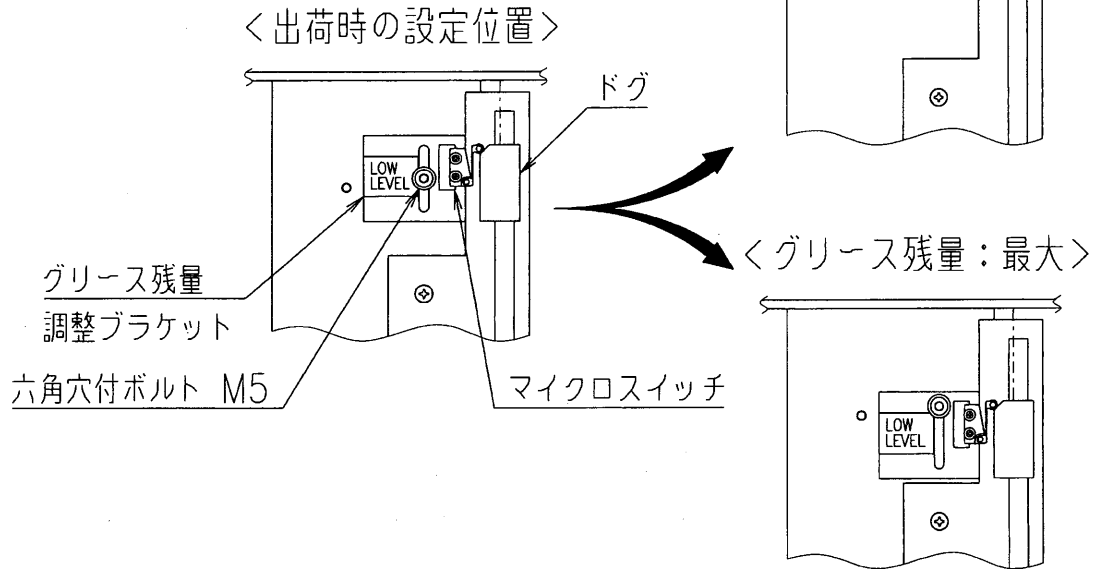


図9 ローレベル調整方法

#### < 注意事項 >

- ・ローレベル位置調整後はマイクロスイッチが作動するか確認して下さい。  
調整ブラケットの固定位置によってはマイクロスイッチが作動しない場合があります。
- ・グリース残量を最小にする場合は数回に分けて調整して下さい。  
いきなり最小にするとグリースの種類によってうまくマイクロスイッチが作動しない場合があります。また、十分にポンプの操作方法を理解した上で調整を行って下さい。

### 5-6. 安全弁

ポンプを異常高圧から守るために安全弁を設けています。  
高圧が発生した場合は、その圧力で安全弁が作動しベール缶内にグリースを逃がします。

設定圧力：2.5 MPa

#### < 注意事項 >

- ・工場で圧力設定しておりますので、絶対に触らないで下さい。



## 6. 電磁切換弁 (SV02-3C※形)

### 6-1. 仕様

最高使用圧力 : 21 MPa

推奨周囲温度 : -15 ~ 50℃

相対湿度 : 0 ~ 95%

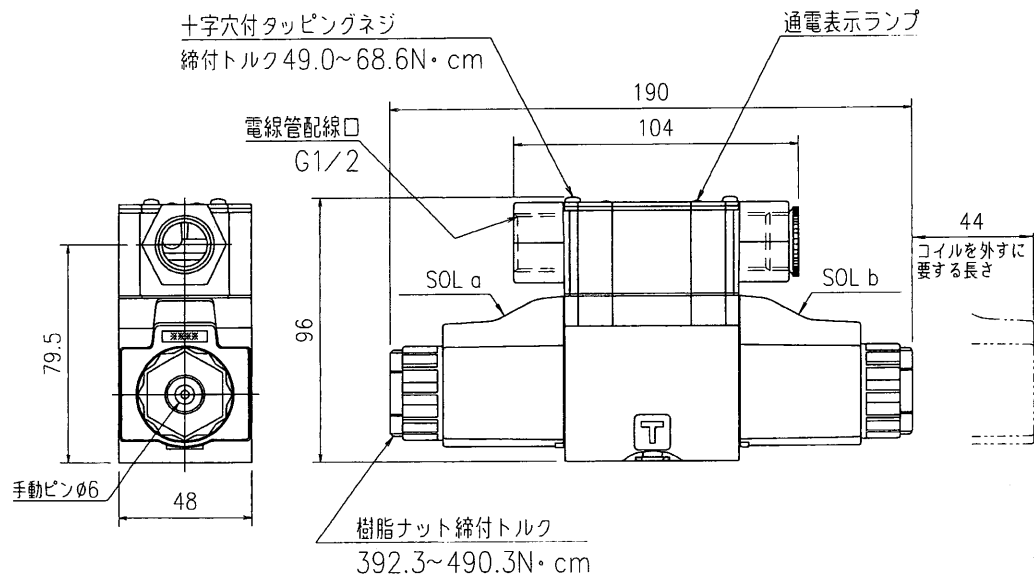


図10 外形寸法図

### 6-2. 作動説明

この電磁切換弁は、電気信号でソレノイドに吸引力を発生させ、その吸引力でスプールを摺動させてグリースの通路を切り換える直動形方向制御弁です。

また、スプリングセンター形のためソレノイドが通電していない時は、スプールが中立位置にあります。(図11参照)

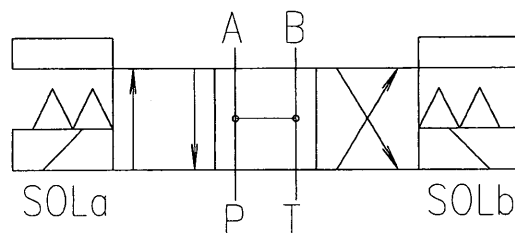


図11 回路図

#### < 注意事項 >

- ・必ず一方の励磁を解いてから他方を励磁して下さい。
- ・高圧で長時間切換位置に保持することは避けて下さい。  
流体固着による作動不良が生じることがあります。

## 7. ポンプ下部分解図

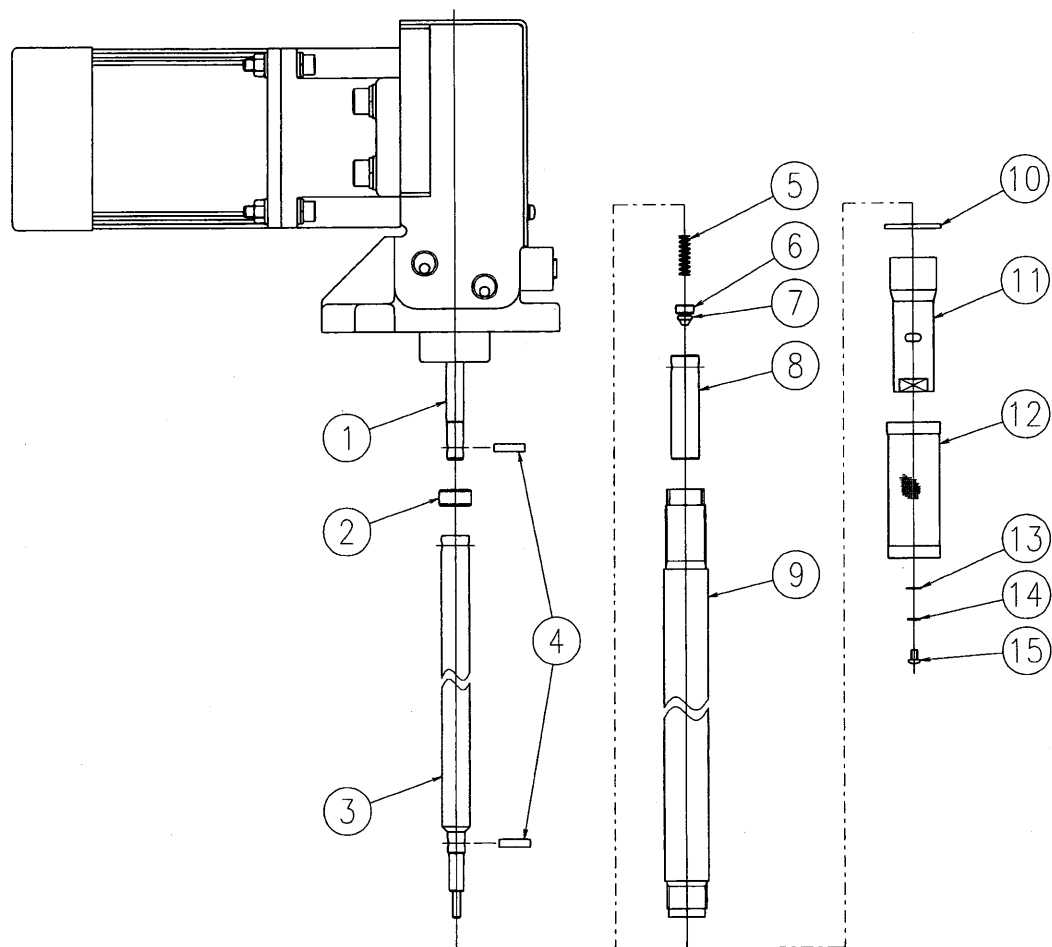


図12 ポンプ下部分解図

## &lt; 構成部品 &gt;

No.	部品番号	部品名称	数量
1	1146515-1	ピストンロッド	1
2	1146514	保持リング	1
3	1132559	連結ロッド	1
4	FP1311-3	パイロットピストン	2
5	2919407824801	バネ	1
6	1146497	ポペット弁	1
7	KP1B004	Oリング	1
8	1132560	ピストン	1
9	1132561	インナーチューブ	1
10	1146498	座金	1
11	1132562	シリンダー	1
12	1146499	サクシヨンスターナ	1
13	SPAM03C	平座	1
14	SS2M03C	バネ座	1
15	BFMF03005C	鍋小ネジ	1

## 8. 故障の発見と対策

現象	原因	処置
ポンプは作動しているが圧力が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペール缶が空</li> <li>・グリースにエア混入</li> <li>・ポンプ内にエア噛み込み</li> <li>・グリースの漏れ</li> <li>・エア抜きバルブの緩み</li> <li>・ピストン部の摩耗〈注〉</li> <li>・ポンプ先端のストレーナの目詰まり〈注〉</li> <li>・電磁弁が作動せず、ポンプから吐出されたグリースはタンクに戻っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペール缶を新品に取り替える</li> <li>・フォロアプレートの取付け時、エア混入に注意（5-1参照）</li> <li>・ポンプ部エア抜きバルブを緩め空気の混入がなくなるまでグリースを吐出させる（5-4参照）</li> <li>・継手やプラグ等の接続部から外部へのグリース漏れ箇所をチェックして全て増し締め</li> <li>・エア抜きネジを増し締めす</li> <li>・ピストン部の点検後、修理または交換</li> <li>・ストレーナ部の清掃（図13参照）</li> <li>・電磁弁電源及び電磁弁を点検</li> </ul>
ポンプが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モーターへ電源が供給されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モーター配線の接続を確認</li> </ul>
ポンプは動作するが吐出量が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピストン部の摩耗〈注〉</li> <li>・ポンプ先端のストレーナの目詰まり〈注〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピストン部の点検後、修理または交換</li> <li>・ストレーナ部の清掃（図13参照）</li> </ul>

## 〈 注意事項 〉

- ・点検や修理の際は必ずポンプの電源を切ってから実施して下さい。
- ・ピストン部の点検・修理・交換に関しては弊社にご相談下さい。
- ・ストレーナは変形しやすいので踏んだり、ぶついたりしないで下さい。

## ～取り外し方法～

- ①ウエス等できれいにする
- ②鍋小ねじM3を外す
- ③ストレーナを真下に取り外す
- ④ストレーナをエアブロー等できれいにする
- ⑤取付けは上記と逆の手順で取付け、しっかり固定する

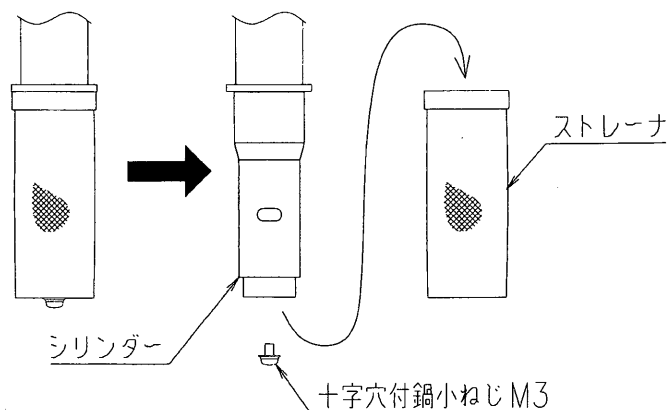


図13 ストレーナ取外し方法